

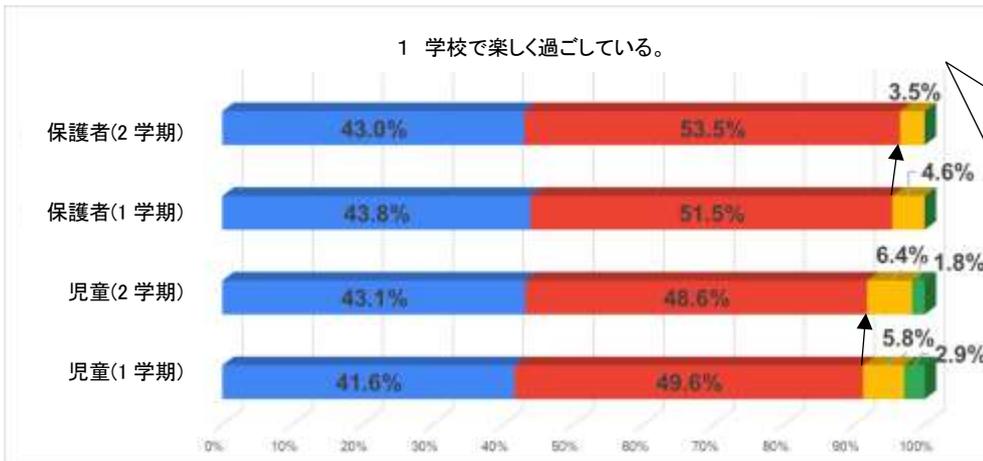
アクションプラン（12月末まで）の結果及び学校評価アンケート（2学期）を踏まえた考察

富山市立水橋西部小学校

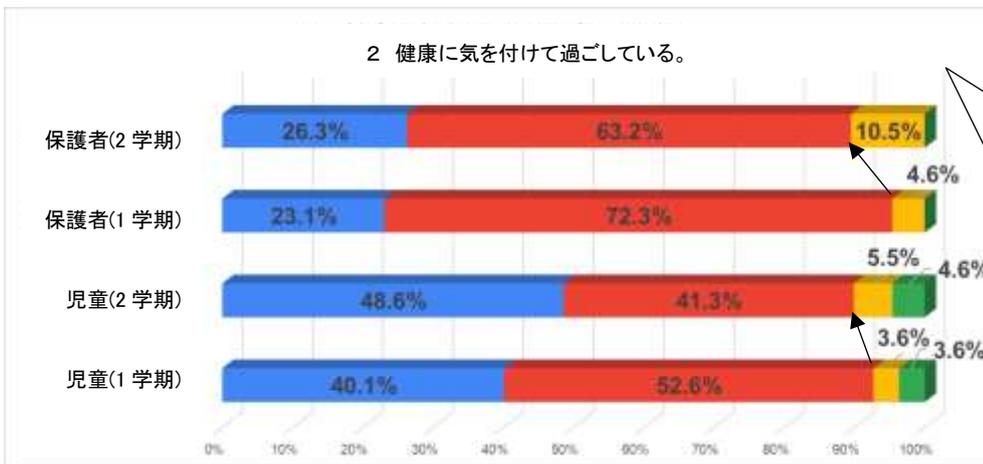
保護者アンケート及び児童アンケートの集計結果を報告いたします。子供たちは、2学期の生活を振り返り、保護者の皆様にはお子さんの様子から感じられたことについて回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

各項目について、児童、保護者の「とてもそう思う」「まあまあそう思う」「あまりそうとは思わない」「思わない」の割合を以下のとおりグラフに示しました。

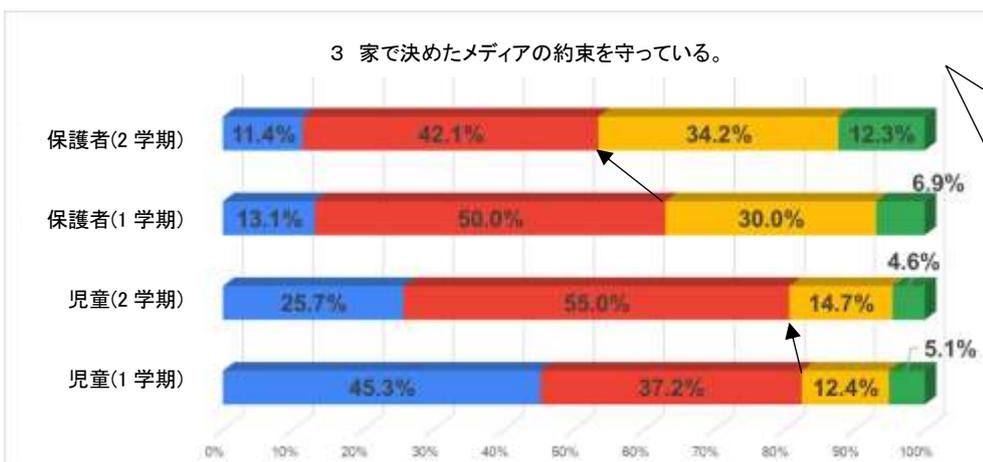
■ とてもそう思う。
 ■ まあまあそう思う。
 ■ あまりそうとは思わない。
 ■ 思わない。



「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 96.5%
 (+1.2%)
児童 91.7%
 (+0.5%)

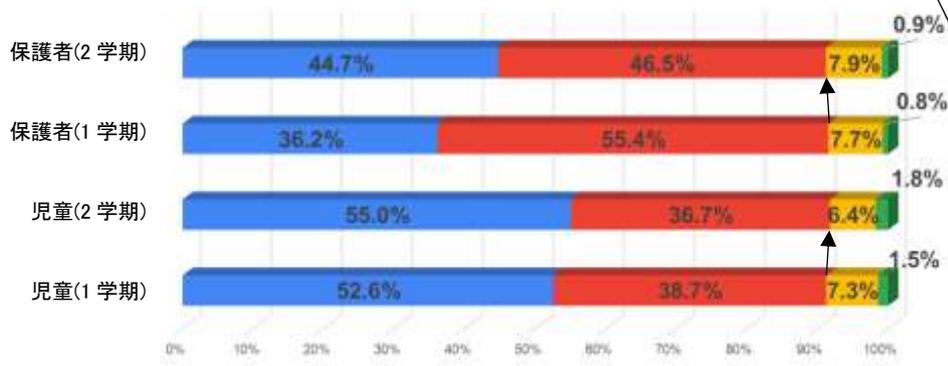


「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 89.5%
 (▼5.9%)
児童 89.9%
 (▼2.8%)



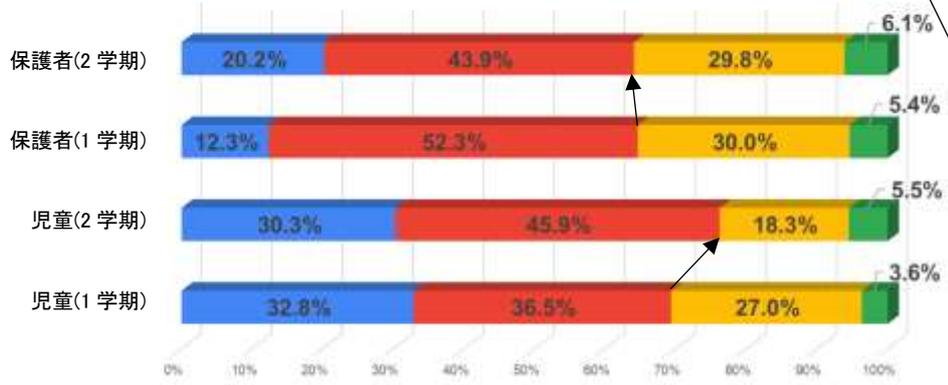
「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 53.5%
 (▼9.6%)
児童 80.7%
 (▼1.8%)

4 興味をもったことに進んで取り組むことができる。
(ゲームの類いを除く)



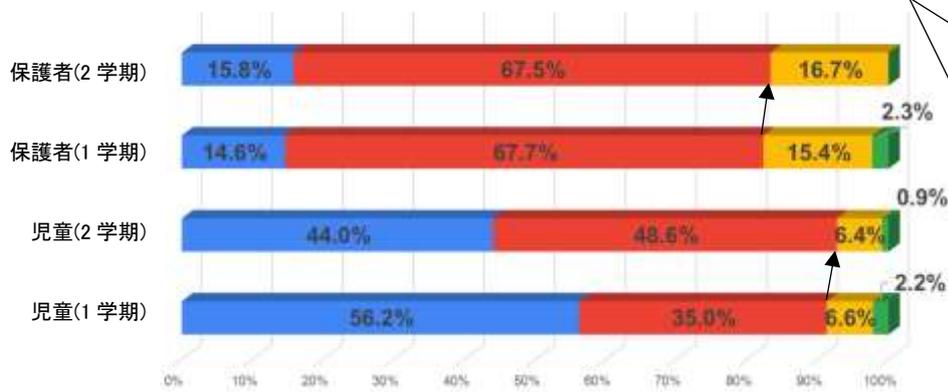
「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 91.2%
 (▼0.4%)
児童 91.7%
 (+0.4%)

5 家庭学習に進んで取り組んでいる。



「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 64.1%
 (▼0.5%)
児童 76.2%
 (+6.9%)

6 授業の内容を理解している。

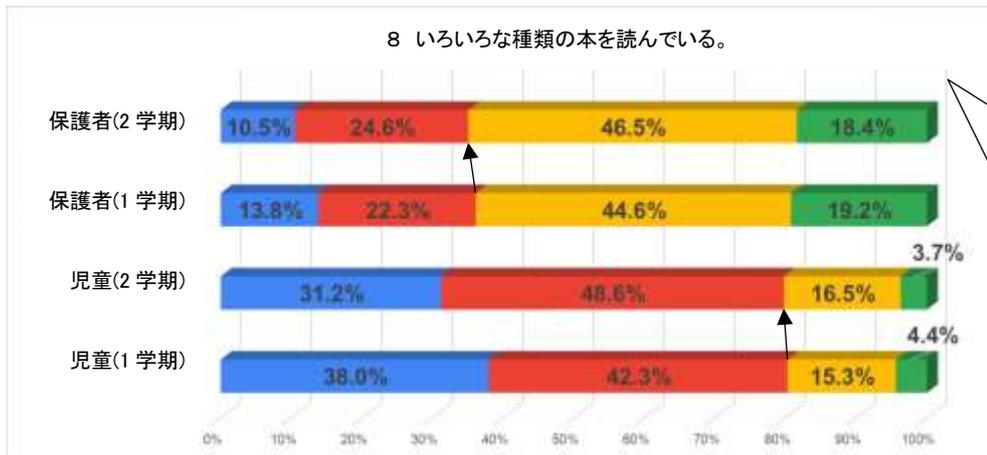


「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 83.3%
 (+1.0%)
児童 92.6%
 (+1.4%)

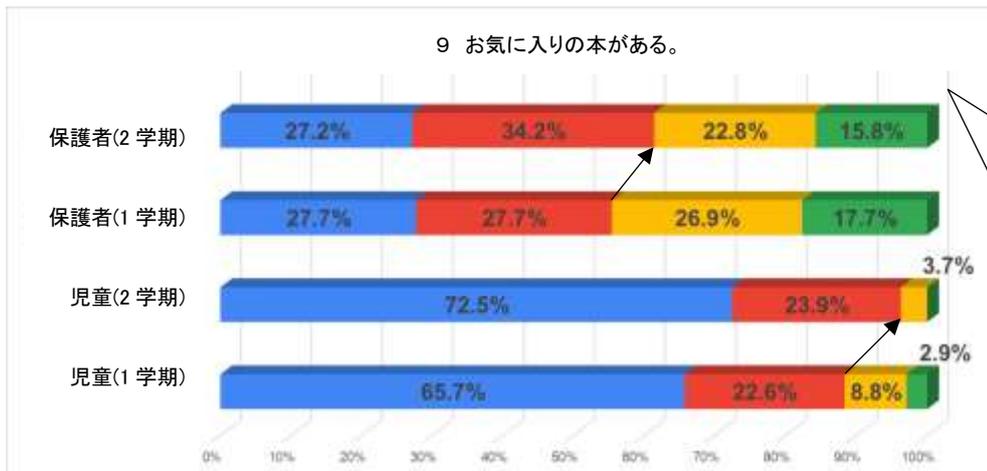
7 読書が好きである。



「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 42.1%
 (▼6.4%)
児童 83.5%
 (▼5.5%)



「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 35.1%
 (▼1.0%)
児童 79.8%
 (▼0.5%)



「そう思う」の割合について、2学期の結果(1学期比)は
保護者 61.4%
 (+6.0%)
児童 96.4%
 (+8.1%)

今年度、水橋西部小学校では、学校教育目標「仲間と関わり合い、暮らしをよりよくしていこうとする子供の育成」に向かって、(1)『学校が楽しい』と思う子供の育成、(2)「自主的に学習に取り組もうとする子供の育成」、(3)「本に親しみ、読書が好きだという子供の育成」に重点を置き、取り組んできました。アクションプランの結果(12月末まで)を、2学期の学校評価の結果を基に考察します。

(1) アクションプラン①

共通課題(数値目標)	出席率を99.0%にする。								
向上目標	「学校が楽しい」と思う子供を増やす。								
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
99.0%	98.7%	97.8%	97.0%	98.9%	97.8%	96.9%	96.3%	97.5%	97.8%

- アクションプランの結果(出席率より算出)
 - ・達成できたのは4月のみで、それ以外の月は目標を到達できませんでした。
 - ・10月、11月以外は、およそ97~98%台を推移し、4月から12月までの平均は97.8%でした。
- 学校評価による考察及び3学期の取組
 - ・「1 学級で楽しく過ごしている」と答えた児童は91.7%(1学期比+0.5%)、保護者は96.5%(1学期比+1.2%)でした。どちらも90%以上で、さらに1学期より割合が上昇したことから、2学期は1学期以上に楽しく過ごせていたことがうかがえます。また、「6 授業の内容を理解している」と答えた児童は92.6%(1学期比+1.4%)、保護者は83.3%(1学期比+1.0%)いたことから、既習内容を基に、2学期の学習内容が「分かった」「できた」と感じられた子供が増えたことも理由の一つにあるのではないかと考えました。その一方、ワークテストやたしかめテストでな

かなか成果を上げられずにいる子供もいます。3学期は一年間のまとめの学期として、基礎基本の習熟を図ります。そのために、高学年ではチームティーチングによる子供一人一人への積極的な支援や、少人数グループ体制による個に応じた丁寧な指導を行います。また、学習以外の場面について見ると、2学期は、運営委員会による「挨拶ボランティア」や環境委員会による「お掃除ボランティア」等、子供が自主的に参加できる活動が活発に行われました。自分で考えて取り組んだり、互いに頑張りを認め合ったりできるような場を設けることで、自己肯定感が高まり、「学校が楽しい」と感じる子供の増加に至ったものと考えます。また、校外学習や学習発表会等、目当てをもって取り組む学校行事が多くあったことも、子供たちが達成感や充実感を味わうことにつながったのではないかと思います。3学期は、進級や進学を見据え、一つ上の学年を意識しながら、「卒業おめでとう週間」を中心に、主体的・協働的に取り組む子供を育てていきます。

- ・「2 健康に気を付けて過ごしている」と答えた児童は89.9%（1学期比▼2.8%）、保護者は89.5%（1学期比▼5.9%）でした。また、「3 家で決めたメディアの約束を守っている」と答えた児童は80.7%（1学期比▼1.8%）、保護者は53.5%（1学期比▼9.6%）でした。どちらも1学期に比べ、割合が低下しています。出席率の平均が99.0%に至らなかったことから、健康に留意して過ごすことができなかった子供が多いことが分かります。要因はいくつか考えられますが、中でもメディアについて考えると、富山市は令和6年度、「一人一台端末を『文房具の一つ』として活用できるようになる」ことを目標に掲げています。そのため、今年度間にメディアとの適切な関わり方を身に付けておくことが望ましいことから、家庭と連携した適切な指導とルールづくりに努めていきたいと考えています。3学期も、水橋中学校区のメディアコントロール週間における保健委員会の取組を中心に、普段から家庭で決めた約束を守る意識を高められるよう学校でも支援していきます。

(2) アクションプラン②

独自課題(数値目標)	家庭学習で、低学年は30分、中・高学年は自己目標時間を達成する子供の割合を80%以上とする。						
向上目標	自主的に学習に取り組もうとする子供を増やす。						
	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	平均
	46.0%	58.0%	80.0%	73.9%	80.4%	86.8%	70.9%

- アクションプランの結果（Google スプレッドシートでの自己評価より算出）
 - ・6月から12月までの平均は70.9%でしたが、月別に見ると8・9月、11月、12月は目標を達成することができました。
 - ・6月、7月、8・9月、…と月を経るにつれ、達成率が概ね上昇してきました。
- 学校評価による考察及び3学期の取組
 - ・「4 興味をもったことに進んで取り組むことができる」と答えた児童は91.7%（1学期比+0.4%）、保護者は91.2%（1学期比▼0.4%）で、1学期の結果とほぼ変化がありませんでした。また、「5 家庭学習に進んで取り組んでいる」と答えた児童は76.2%（1学期比+6.9%）、保護者は64.1%（1学期比▼0.5%）でした。保護者は1学期の結果とほぼ変化がありませんでしたが、児童は1学期に比べ約7%上昇しました。1学期は、家庭学習についての自己評価を毎日の連絡帳で行い、自分の取組を振り返る習慣を身に付けてきました。その上で2学期は、一人一台端末を活用し、一か月毎のカレンダーで振り返るようにしました。一か月のカレンダーに日々の頑張りを蓄積することによって、子供たちは自分の取組状況を認識することができ、さらに、自己目標の達成に

向けて意欲を持続したり高めたりすることができたようです。子供が夢中になれるものを見付けることが、家庭学習に集中して取り組む姿につながっていくと考えます。3学期も、仲間の取組から自分もやってみたいと思えることを見付けられるように、学級で「プラス1ノート」を紹介し合う時間をとります。また、身近な生活の中に存在する「はてな」に興味関心をもつように、授業で話題を提供したり、ホームページで写真や記事を紹介したりしていきます。ご家庭でも、生活の中からお子さんが興味をもちそうなことを取り上げ、「どうして、～なのかな？」と投げかけてみてください。

(3) アクションプラン③

独自課題(数値目標)	図書室で借りる本の自己目標冊数を達成する子供の割合を80%以上とする。						
向上目標	本に親しみ、読書が好きだという子供を増やす。						
	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	達成率
	67.9%	29.3%	22.1%	25.4%	27.5%	74.6%	74.6%

○ アクションプランの結果（目標冊数から毎月の目安を設定して算出）

- ・12月まで目標を達成できませんでした。
- ・12月はそれまでに比べ、自己目標冊数を達成した子供の割合が大幅に上昇しました。

○ 学校評価による考察及び3学期の取組

- ・「7 読書が好きだ」と答えた児童は83.5%（1学期比▼5.5%）、保護者は42.1%（1学期比▼6.4%）で、1学期の結果に比べ、どちらも6%程度割合が低下しました。2学期は、月に一回、毎週水曜日の朝読書の時間に、教員が各教室を巡回し読み聞かせをしました。教員の朗読を楽しそうに聞く姿を見ると、子供たちはお話を聞くこと自体は好きだけれど、実際に自分が読むことが得意ではないように感じました。そのことは、図書室で借りる本の自己目標冊数の達成率低迷からも言えます。昨年度の貸出冊数を基に子供自身で決めた自己目標冊数ですが、目標設定の時点で実態に合わなかった可能性もあります。子供が自己目標を設定する場面はこれからも多くあることから、担任が子供一人一人の実態を的確に捉え、適切な支援をしていくことで、子供は自分に合った目標を設定したり、達成に向けて努力を続けたりできるものと考えます。
- ・自己目標冊数を月別に見ると、12月には74.6%の子供が達成し、11月に比べ40%近く割合が上昇しています。12月には、図書委員会が「クリスマス・スペシャルウィーク」を企画し、一度に3冊の本を借りることができました。図書委員の子供たちの創意工夫や、担任の声かけが結果に表れていることから、3学期は、子供たちの自主性を生かすこと、教員が一人一人の子供に応じた積極的なはたらきかけを行うことで、子供が「読書が好きだ」と感じられるようにしていきます。
- ・「9 お気に入りの本がある」と答えた児童は96.4%（1学期比+8.1%）、保護者は61.4%（1学期比+6.0%）で、1学期の結果に比べ、どちらも6～8%程度割合が上昇したことから、読書活動によって、お気に入りの本を見付けられた子供が増えたことが分かります。また、「8 いろいろな種類の本を読んでいる」と答えた児童は79.8%（1学期比▼0.5%）、保護者は35.1%（1学期比▼1.0%）で、1学期とほぼ変化はありませんでした。この二項目を関連付けてみると、今後、いろいろな種類の本に親しめるような環境をつくることで、子供たちのお気に入りの本が増え、それが読書が好きなお子さんの増加につながるのではないかと考えました。

今年度も残り二か月です。今後も、子供たちが充実した学校生活を過ごすことができるよう、いただいたご意見を生かしながら教育活動の改善を図り、「思いやりのある」「進んで学ぶ」「たくましい」天瀬っ子の育成を目指します。ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。